

3大学連携SCRUMプロジェクト推進に関する包括協定を締結

学長 後藤 直正

京都薬科大学、星薬科大学、明治薬科大学による 3大学連携SCRUMプロジェクト 調印式



左から 明治薬科大学 学長 石井啓太郎、京都薬科大学 学長 後藤直正、星薬科大学 学長 田中隆治

CONTENTS

■ 特集

愛学躬行歴史資料室のオープン..... 4

■ コラム

水中でぶつぶつ..... 7
卒業生からのメッセージ..... 10
学生相談室だより..... 20
京薬コレクション..... 22

■ 報告

MCPHS大学サマープログラムに参加して..... 8
第103回薬剤師国家試験の結果について 12
2018年度 京都薬科大学給付型奨学生決定・表彰..... 14
日本薬学会 第8回全国学生ワークショップに参加して..... 23
受賞・掲載..... 26
京都薬科大学奨学金寄附金芳名録..... 28

■ ご挨拶

ご挨拶 3

■ イベント

3大学連携SCRUMプロジェクト推進に関する包括協定を締結..... 1
第12回 自治会執行部主催 セタ企画..... 10
理科実験講座「身近な夏の不思議体験2018イン山科」..... 11
2018年8月にオープンキャンパスを開催しました 16
2018年度総合薬学研究・総合薬学演習卒業論文発表会開催..... 21
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業／成果発表会..... 24

■ お知らせ

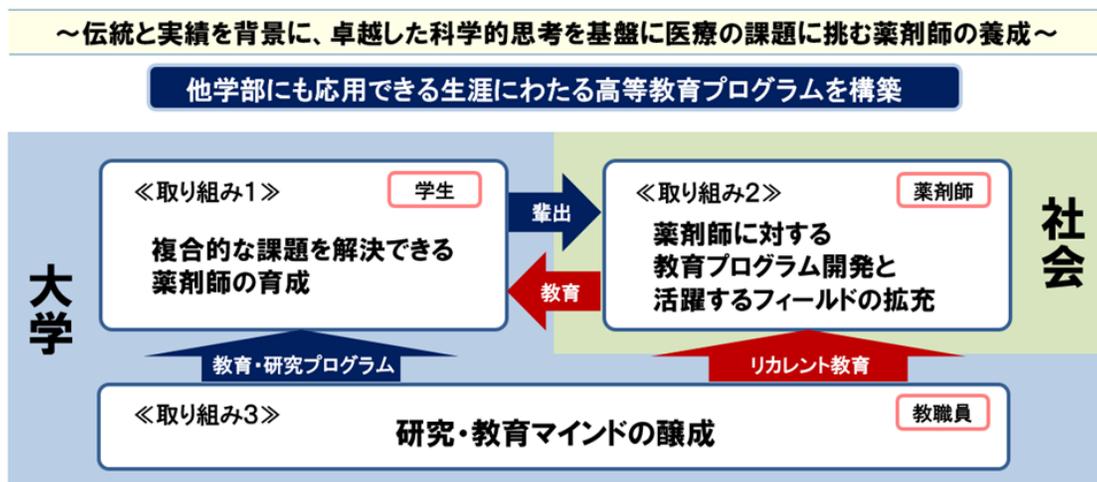
Library News..... 7
第16回「文化講演会」のお知らせ..... 15
京薬会だより..... 17
生涯教育センターからのお知らせ..... 18
2018年度学位授与式（前期）・大学院博士課程秋季入学式..... 21
人事異動..... 22
クラブだより..... 22

京都薬科大学、星薬科大学、明治薬科大学（以下、3大学）は、3大学連携SCRUMプロジェクトの始動にあたり、7月17日に京都薬科大学で包括協定締結調印式を行いました。

団塊の世代800万人が後期高齢者に達する「2025年問題」、少子化による労働者・技術者不足など、日本社会は今までに直面したことがない複雑な課題に直面します。このような課題に立ち向かい、社会を支える薬剤師を輩出するため、3大学は3大学連携SCRUMプロジェクトを推進することで合意しました。SCRUMという名称には3大学がスクラムを組み協同で課題解決にあたることに加え、「科学（Science）を通して、社会と対話（Communicate）し、研究力（Research）を磨き、知識・学び・経験を統合（Unite）できる薬剤師の養成を介して、3大学で医療課題に挑む行動（Movements）を開始する」という意味が込められています。

本プロジェクトは、薬剤師の11.1%（新卒・2017年度実績）を輩出する3大学の教育・研究に関するノウハウを集結し、基礎科学・基礎薬学と臨床薬学を関連させ課題を解決できる薬剤師を育成・輩出することでこれらの困難な課題解決に挑むものです。以下の3つの取り組みを通じて、基礎と臨床を結び、医療や社会の課題に立ち向かう薬剤師を養成します。そして、将来的には他学部にも応用できる生涯にわたる高等教育プログラムモデルを提唱することを目指します。

<目指す姿>



■複合的な課題を解決できる薬剤師の育成

今後日本社会は、医療において解決すべき様々な課題に直面することが予想されています。これらの課題はその要因が複合的に絡み合っており、様々な医療関係者が知恵やアイデアを出し合い解決していく必要があります。3大学は薬剤師の最大の強みである「科学力を基盤とした問題発見・解決能力」を伸ばす教育プログラムを開発し、複合的な要因を紐解き・解決することで課題解決に貢献していくことを目指します。

■社会で活躍する薬剤師に対する教育プログラム開発と活躍するフィールドの拡充

医療や社会が抱える課題を解決していくためには、これから社会に出ていく薬剤師だけでなく、既に社会で活躍している薬剤師の複合的な課題に対する対応力も向上させることが重要になります。本プログラムでは3大学の卒業生のみならず、現在活躍する約30万人の薬剤師を対象とした教育プログラムを開発することで社会に貢献することを目指します。また、キャリア教育プログラムや就職支援プログラムを共同開発し、科学を基盤とするサイエンティストである薬剤師の活躍するフィールドを拡充することで医療や産業の発展に貢献します。

■研究体制の整備と教職員・研究者の能力向上

基礎薬学と臨床薬学の融合を更に進めるためには、3大学の研究力を更に発展させていくと共に、教職員の能力向上を図る必要があります。3大学では共同研究や連携シンポジウムの開催を通して、3大学の研究力を更に高めていくとともに、基礎薬学と臨床薬学を研究面でも関連させ、その成果を教育に還元します。また、FD・SDの共同開催や人材交流の推進を通し、本プログラムを支える教職員および研究者の能力向上を図ります。

本プロジェクトを成功させるためには、教職員、卒業生そして何よりも学生の皆さんの協力・参画が必要不可欠です。3大学による取り組みは随時発信していきます。是非積極的に本プロジェクトに協力・参画いただきますようお願いします。

新任のご挨拶



創薬科学系
薬化学分野

助教 浜田 翔平

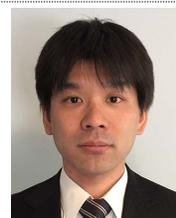
この度、平成30年7月1日付で薬化学分野の助教に着任いたしました。

私は平成20年に名古屋市立大学薬学部を卒業後、同大学院薬学研究科に進学し、博士前期課程を修了いたしました。その後、京都大学大学院薬学研究科博士後期課程に進学し、川端猛夫教授のご指導の下、平成25年に博士号を取得いたしました。また、学位取得後は

科研製薬株式会社にて約5年間勤務いたしました。

博士後期課程においては新規酸化触媒の開発研究に、科研製薬株式会社ではメディシナルケミストとして創薬研究に従事しました。今後はこれまでの経験を活かし、生理活性物質や医薬品の効率的合成に寄与する触媒反応の創出を行いたいと考えております。

本学での業務が教員としての初めての活動となります。多くの方々から日々学ぶことばかりですが、幅広い分野で活躍するファーマシスト・サイエンティストの輩出に貢献できるよう尽力いたします。皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



統合薬科学系

かねやす
助教 西村 周泰

平成30年7月1日付で、統合薬科学系の助教に着任致しました。平成20年に本学大学院を修了して以来、10年ぶりに母校の教員として採用して頂き、懐かしさと新鮮さが入り混じった不思議な感覚の中、日々を過ごしております。学位取得後は、京都大学理学部、同iPS細胞研究所、カロリンスカ研究所（スウェーデン）にて、「パーキンソン病の新規治療法の開発」をテーマに、神経発生・再生研究および幹細胞研究を進めてま

いりました。

さて、近年のグローバル化、ITの発展により、誰でも手軽に必要な知識を取得できる世の中になりました。少し極端にいうと、薬学を専門としない方々でも薬の知識を手に入れられる、今はそんな時代です。ボーダーレスの世の中になりつつある今だからこそ、自分らしさを大切に、薬の専門家として、高度な判断と行動ができる力をぜひ育てたいと思っております。

これから本学の一員として教育・研究に携わる中で、教職員・学生の皆様と触れ合える機会を楽しみにしております。ご迷惑をおかけすることもあるとは思いますが、そんな中で日々成長できればと考えておりますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

Twitter: @Kaneyasu1980

昇任のご挨拶



教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター

講師 松村 千佳子

この度、平成30年7月1日付で臨床薬学教育研究センターの講師を拝命いたしました。私は平成元年に武庫川女子大学薬学部を卒業後、大阪大学医学部附属病院薬剤部研修生を経て大阪府松原市の市立松原病院に入職しました。その後、病院薬剤師として外来・病棟業務に携わる一方で、平成13年に武庫川女子大学大学院薬学研究科薬学専攻修士課程を修了しました。その後平成21年に本学臨床薬学教育研究センター助教となり、平成27年9月には同センター矢野義孝教授のご指導

の下、博士（薬学）号を取得しました。

これまでに、教育面では医療の担い手としてのこころ構えB、医療薬学B、緩和医療概論や実務事前実習などを担当させていただきました。また研究面では緩和ケアを専門とする薬剤師として常に患者と向き合ってきた経験を生かして、がん患者の痛みの軽減、患者QOLの評価、個々の患者にあった最適な支援方法の構築の研究を遂行してきました。

今後はさらに上記の教育・研究活動に加えて様々な疾患や薬物治療に対して客観的な評価に基づいた研究成果を蓄積し、エビデンスに基づく薬物治療がより普及するように、医療現場の薬剤師に向けても臨床における研究の重要性を発信するなど社会貢献にも努めていく所存です。これまで同様、皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

愛学躬行歴史資料室のオープン

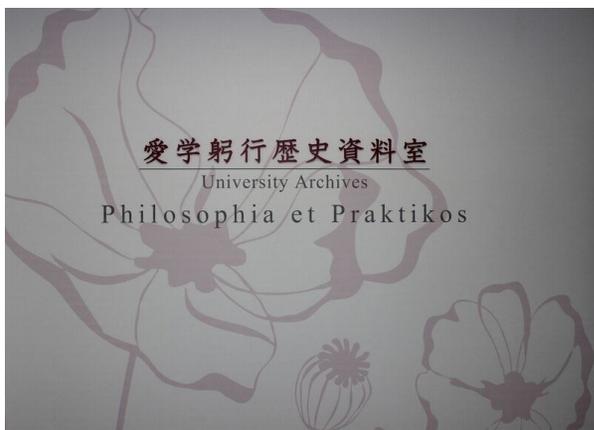


本年5月22日に育心館3階に、京薬会と本学法人との協力により「愛学躬行歴史資料室」が開室されたことは、本誌前号(194号)でお知らせしたとおりです。本号では、特集記事として、この愛学躬行歴史資料室(以下、資料室と略記)について、あらためてご紹介させていただくことになりました。

私は日本近代史を専門としていたこともあり、2004(平成16)年の創立120周年の際に、『京薬のあゆみとともに-京都薬科大学への道のり-』をまとめ、その準備過程で、関連資料(文献や画像など)を収集・整理していました。そうした経緯もあり、京薬会の幹事を委嘱され資料室設置準備委員の1人として歴史関係のコーナーを担当させていただきましたので、今回の特集記事を執筆させていただく次第です。

基礎科学系一般教育分野 教授 鈴木栄樹

Feature article.



資料室の入口

《開室までの背景》

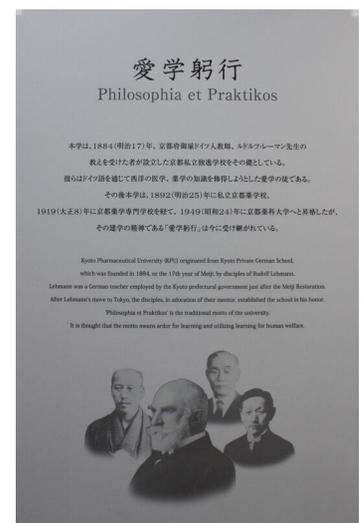
本学の起点は、1884(明治17)年4月に創設された京都私立独逸学校、とくに、薬学関連科目の教育が行われた「別科」(2年後に、文字どおり「薬学科」と改称)にあります。2014(平成26)年に創立130周年を迎えた本学では、同窓会組織である京薬会(会長は西野武志元学長)の発企により資料室の開室が準備されてきました。本学法人の支援ともあいまって、その努力が実り、昨年になって開室場所と室名が決定され、ついで施工は乃村工藝社に委託することになりました。昨年6月頃よりは、室内のレイアウトや展示方法が、京薬会設置準備委員や本学施設課の方々を交えて具体的に検討されはじめ、昨年末から今年にかけて改装工事が行われました。

資料室の目的として、以下に4点を挙げてみます。本学には、長年にわたるあゆみの中で蓄えられてきた様々な資料や器物があります。120周年の際に私が収集した本学関連資料は、『京都薬科大学八十年』や『京都薬科大学百年史』編纂の際に収集され、図書館に所蔵されていたものと、1922(大正11)年以降のアルバムからスキャナで読み込んだ画像データなどで

す。そのほかにも図書館には、ルドルフ・レーマンが監修した『和独対訳字林』、レーマン会のメンバーで3代目の理事長をつとめた小泉俊太郎の筆記帳など貴重な資料が所蔵されています。これらに加えて、京薬会が所蔵する資料や器物(天秤・顕微鏡・看板など)があり、こうした分散所蔵されているものの散逸や廃棄を防ぎ、長期的な保存と有効利用を図っていくということが第1の開室目的です。

次に、2000年代に入って以来、6年制実施に向けて旧校舎が順次取り壊され、愛学館・躬行館をはじめとする新しい建物と入れ替わり、キャンパスの景観がすっかり変わりました。本学の卒業生、とくに年配の方々にとっては、薬大の発展を目の当たりにして喜ばしい思いの反面、一抹の寂しさも感じられるようです。本学を訪れた際に、資料室というささやかな場ですが、自らの学生時代を思いおこしていただけたらということも開室理由の一つです。

第3に、京都私立独逸学校の創立以来、今日にいたる先人たちの努力に思いを致す場としての資料室という意義づけです。この130年余りにわたる歴史のなかで、本学は幾度かの廃校の危機に遭っています。私立京都薬学校、京都薬学専門学校、京都薬科大学という名称の変化は、たんなる改称ということにとどまりま



R・レーマンと教え子たち(左側の和服姿が中川重麗)

せん。政府（文部省）あるいは京都府による教育制度のもとで定められた建物や機器備品、さらには有能な教員数の確保などの諸要件を満たすためには、財政面での保証がなくてはなりません。こうした点では、卒業生をはじめ京都の医療関係者などさまざまな人々からの大きな支援がありました。そうした歴史を経て、現在の本学があるということ、さらに本学の将来を考える場ともしていただければと思います。

最後に、1925（大正14）年に山科の地に薬草園が開園し、さらに1932（昭和7）年にキャンパスそのものが山科に移転して以来、本学は地域の皆さまに大きく支えられてきました。逆に、ここ90年ほどの山科の歴史の中で本学の存在を欠かすことはできないでしょう。地域の皆さまにも、是非とも資料室に足を運んでいただき、山科の変遷に理解を深める場としていただけたらと思います。



イントロ・コーナー

《資料室の構成》

資料室に入ると、「イントロ・コーナー」として正面のガラスケースの中には、上部に長井長義（号は朴堂）揮毫の「切磋琢磨」の扁額、その下には本学の最初の校章入り校旗が飾られ、下の棚には薬学を象徴する天秤、そして一対の芥子のレプリカが置かれています。

長井長義（1845～1929）は、徳島藩の藩医の家に生まれ、ドイツにも留学し、麻黄からエフェドリンを単離抽出した薬学者として知られています。「日本の薬学の父（開祖・始祖とも）」と呼ばれ、日本薬学会の初代（終身）会長も務めました。扁額は、長井が数え76歳の時、すなわち1920（大正9）年1月のもので、前年4月に開校した京都薬学専門学校に寄贈されました。本学に直接関わったわけではありませんが、薬学界の重鎮として本学の発展を側面支援した人物として記憶に留めておきたいものです。

（本誌P.22の「京薬コレクション」欄も参照してください。）

次に、右に目を向けると壁面2面とその手前の棚に「京薬のあゆみコーナー」が設けられています。第1面は京都私立独逸学校創立から終戦まで、第2面は戦後の京都薬科大学の創立（1949年）前後



京薬のあゆみコーナー①



京薬のあゆみコーナー②

から現在までを扱っています。

ついで「企画コーナー」が設けられています。このコーナーは、展示替えを予定しているものですが、現在は、昔のお薬屋さんの店頭をイメージした展示を行っています。

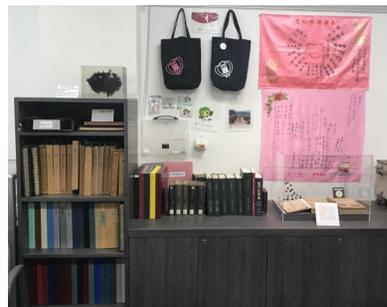


企画コーナー

木製の看板、百味筆筒や薬研、製剤用の器具などを通して、往年のお薬屋さんを頭に描いていただけたらと思います。

「企画コーナー」の左隣は「京薬会コーナー」です。

「薬窓会」と称されていた時期の会誌、1943年創刊の『京薬会誌』第1号以来の昭和期のバックナンバーなどが展示されています。



京薬会コーナー

最後は、「生薬コーナー」です。松田久司教授のご尽力により、数ある生薬の標本の中からピックアップされた数十点がガラスケースの中に展示されています。植物生薬のほか動物生薬など、他ではなかなかお目にかかれない貴重品もあります。

以上のほかに、資料室前のスペースには、AVコーナーが設けられ、関係する動画を提供していきたいと考えております。

また、愛学館1階東側エントランスにも展示ケースが置かれ、さらにモニターを使った情報発信もこれから充実させていきたいと考えております。



生薬コーナー

《新たに見いだされた資料》

「京薬のあゆみコーナー」に展示された資料の中から、とくに今回、開室を準備する過程で「発見」された資料を紹介したいと思います。

まず、京都私立独逸学校の開校式に関わる新聞記事です。4月29日付の『朝日新聞』には、「京都府御

用掛中川重麗氏が 経 画して興されたる京都私立独逸学校」と報じられています。また、もう一つの『京都滋賀新報』（現在の『京都新聞』の前身紙の

一つ）5月7日付には、やはり「私立京都独逸学校幹事」の名で有志の入学を呼びかけています。そして、職員として「校長 医学士猪子止戈之助」と

「幹事長 半井澄」の名が挙げられ、「教員 十三名」とされています。猪子と半井はともに当時の京都の著名な医師で、現在の京都府立医科大学および

附属病院の関係者です。

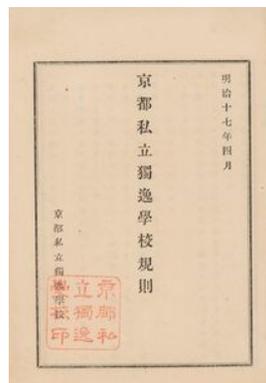
『朝日新聞』の記事によれば、独逸学校設立の中心人物は、当時京都府に奉職していたレーマン会メンバーの一人中川重麗しげあきであったことがわかります。中川は、実際、独逸学校の初代校主に就いています（猪子止戈之助の「校長」というのは、「名誉校長」と考えられます）。中川については、すでに本誌189号で紹介しましたので、参考にしていただけたらと思います。

次に、京都府立京都学・歴史館（旧京都府立総合資料館）に所蔵されていた『京都私立独逸学校規則』にめぐりあえたことも大きな「発見」でした。これは、「明治十七年四月」付ですので京都私立独逸学校の創設時の規則、今で言えば学則に相当するものです。冒頭に「生徒教養ノ目的」として、「本校ハ主トシテ独逸学ヲ教授シ、独逸文ヲ訳読シ得ル者ヲ養成シ、傍ラ理化・博物・薬学及ヒ数学等ノ学科ヲ置キ、訳語ヲ以テ之ヲ教授ス」としています。そして、前者を「独逸学科」、後者を「別課学科」としてそれぞれの課

程表を掲げ、「別課学科」の中には、ドイツ語やラテン語諸科目をはじめ、物理学・化学・動物学・博物学・金石学のほか、薬品学・製薬学・分析学・調剤学などの薬学専門科目が配当されています。修業年限は2年（1年が2学期）です。

以上、紙幅の許す範囲内で資料室を紹介いたしました。見学を希望される方は、資料室と同階の京薬会へご連絡ください。

(TEL:075-595-4621)



『京都私立独逸学校規則』

- 特集記事の結びに、『京都新聞』（2018年8月23日付）に掲載されました記事をご紹介します。 ※その他にも『読売新聞』（2018年5月23日付）、『薬事日報』（2018年5月25日付）に掲載されました。

平成30年(2018年)8月23日(木曜日) 本版 朝刊 市民B 朝刊 023ページ

京の薬学 歩み紹介

京都薬科大 歴史資料室を公開



京都市山科区の京都薬科大学が、前身の京都私立独逸学校が1884年に開校して以降の変遷を伝える。明治時代の卒業証書といった資料や歴代校舎の写真など

が、前身の京都私立独逸学校が1884年に開校して以降の変遷を伝える。明治時代の卒業証書といった資料や歴代校舎の写真など

明治時代からの学校の歩みを伝える記録やパネルなどが並ぶ歴史資料室 (京都市山科区・京都薬科大)

となった歩みを紹介。各時代の学生の写真や年表のほか、時間割や卒業証書、講義ノートなどの資料を並べた。教育関連の所蔵品は200点以上あり、随時展示替えを行う。イッパクの牙など国内外から集めた生薬標本コーナーなどもある。

入場無料。事前予約が必要で、資料室を管理する京薬会075(595)4621まで。(戸田恭彦)

京都新聞社 The Kyoto Shimbun Co., Ltd.

© 京都新聞社 無断複製・転載を禁じます

開館日程

2018年10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2018年11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

2018年12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8:30-21:00

10:00-17:00

休館

休館=館内整備



水

中でふつつ

- 第8話 -

“先が見えぬ”

竹輪は縁起がいい。正月は紅白蒲鉾よりも竹輪である。その心は、先が見える。入り口から出口が見えるJR逢坂山トンネルも縁起いい▲枕終わって、唐突に“坂道”。風景画によく登場するとは言え、素人に挙げられるのはほんのちょっと。無知を承知で四枚の坂道画。先が見えぬ、どないなるんや分からへんというような急坂には馬がつき物。これから“万事塞翁が馬”という格言が生まれた(嘘)▲岸田劉生『道路と土手と塀(切通の写生)(重文 1913油彩画布)』。白い擁壁と高い土手に挟まれた、向こうが見えぬ凸凹の急坂が力強く描かれ、灼熱の午後、さらには汗が匂ってくるような気がする。かいた汗が報いられるかどうかは分からない。平坦ではない今と先への不安、そんな心象を急坂に落ちた電線の黒い影が高めている。いっぽう、日本画の巨匠・東山魁夷、地の果てまでも続く真っすぐな『道(1950 絹本彩色)』で、貫いてきた生き方をさらにとこの思いを表現している。しかし、はるか先ではちょっと曲がっている。まあ、それはそれとして東山魁夷の自信あふれる境地とは無縁の紆余曲折・雑念満載のわが身の寂しさ▲それを吹っ飛ばす歌川国芳『東都名所 かすみが関(19世紀江戸期 木版彩色)』。武家屋敷の白壁に挟まれた急坂を闊歩する、荷車引く、日傘さす、笠かぶる町人たち、武家姿は道の端。向こうが見えぬ坂に大きな青空、浮かぶ雲。白壁内の葛藤・抗争を“町人にゃ関係ねえ”とはお見事。おちょくってやれという市井絵師の心根が見える。それにしても“かすみが関”とは今なおおかし▲さて4番。言わずと知れた葛飾北斎、背番号卅。『くだんうしがふち(19世紀江戸期 木版彩色)』。画面右半分は異様に高い崖と家並みに挟まれた急坂。登る人は坂の向こうを知らずと喘いでいる。しかしである。左にパンすれば、何の変哲もない平坦な道が続き、急坂を越えた旅人が悠々と歩いている。“先を心配するなんざ、ちっせえもんよ”とはユーモアに満ちた落ちである。劉生画と北斎画の類似性が指摘されている。参考にすれども、真似をせず。こうして劉生は重文を残した▲「先が見えぬ」「それを越えた」「そんなん---」、四枚の絵について許しもなく勝手に書いたのに、いまのところ画家・絵師からの苦情はない。しかし先は見えぬ。竹輪をあてにお神酒もう一本。

学長 後藤 直正 

8月初旬の2週間、協定校である米国ボストンのMCPHS大学に、勝見准教授、河下助教の引率のもと、2年次生の12名が留学しましたので、その様子を報告いたします。

まつおか ももこ

■松岡 萌々子

私は今回の2週間の留学において様々なことを学び、そして経験することができました。

最初に感じたことは自分の英語の能力の低さです。最初の頃は現地の人たちの話すスピードがとても速く感じられ、ほとんど聞き取ることができませんでした。また、英語で自分の思っていることを伝えるのはとても難しく、自分の語彙力のなさなどを痛感しました。しかし、日が経つにつれて徐々にではありますが、聞き取ることができるようになり、交流会や実習練習においては自分から発言や質問をすることができるようになりました。

また、薬学の専門的な授業を受講し、薬局等の見学も行いました。授業では、既に大学の講義で習った内容などもありMCPHS大学の先生方もわかりやすく説明して下さいたため、自分が最初不安に思っ



ボストン観光地を巡るダックツアー
(水陸両用車) にて
(筆者：右側前列より3番目)

いたほど理解できないということはありませんでした。しかし、専門用語が分からないことがあり、これからの自分にとっては専門用語の知識をつけることが重要であると実感しました。薬局等の見学では、薬剤師の業務をサポートするテクニシャンがおられること、制限はあるが医師の再診なく、処方箋1枚で繰り返し薬局で薬を受け取ることができる制度があること、ワクチンの接種が可能であることなど、日本と異なる点がいくつもあることを知りとても驚きました。アメリカと日本のそれぞれの薬剤師の利点及び欠点を知り、薬剤師について深く考えるよい機会となりました。

平日の授業後や休日には自分たちで計画を立て観光をしました。ハーバード大学やボストン美術館など様々なところに行き、ボストンの歴史ある街並みを直接肌で感じる事ができ、とても充実した内容となりました。



ボストンレッドソックススタジアムツアーにて

今回の留学を通して得た知識や経験は自分にとってとても大きな糧になると思います。今回学んだことや得た経験をこれからは活かすことができるよう、より一層薬学や英語の勉強に励みたいと思います。

最後になりましたが、今回の留学に関わり支えて下さった全ての方々から感謝しております。ありがとうございました。

なかにし なつき

■中西 菜月

私は今回の留学で、個人の留学では学べない多くのことを学ぶことができました。アメリカの薬剤師の業務や薬局、病院について、実際に目で見て説明を受けることで、より理解を深めることができました。アメリカの薬局や病院等には調剤や在庫管理などを行うテクニシャンがおられ、薬剤師の業務をサポートしていることや、2回目以降の処方では医師が決めたある一定の期間内であれば医師の診察を受けずに薬局に行くだけで薬を受け取ることができるリフィル処方があること、更には、薬局でインフルエ

ンザのワクチン接種を受けられることや薬にクーポンが存在することなど日本と異なる様々な仕組みがあることを学びました。

授業では、分析化学や生理学、有機化学などで習ったことがヒトの体のなかでどのように関連するのか、それぞれの相互関係をわかりやすく説明していただいたおかげで、全体としての流れが掴みやすく集中して聴講することができました。

ウスターキャンパス訪問や薬剤師体験では、MCPHS大学の学生の方と1:1で説明を受けることができたため、その場ですぐ質問し一つ一つ納得しながら取り組むことができました。

また、これに加えてレセプションなどでMCPHS大学のスタッフの先生や学生の皆さんと積極的に話せる機会がありその機会を生かすことで自分の英語力を磨くことができました。自由時間では、自分たちで行き先などを計画したため、自分たちが興味のあるところに行くことができ、有意義に過ごすことができました。



MCPHS大学 ポストンキャンパス

これらの経験や学んだことが新たな視点となり、これからの学びや将来薬剤師として働く際の糧となると思います。また、将来的に、リフィル処方日本に導入される可能性もあるため、もし導入された場合にしっかりと対応できる薬剤師を目指したいと思います。



ポストンの街並みの様子

まるも ひろこ
■丸茂 寛子

私は出発前、MCPHS大学サマープログラムについて、不安な気持ちを抱えていましたが、ポストンでの2週間は私にとって毎日が新鮮で、周囲からの刺激も強く受けた、とても充実した日々でした。

平日は毎日夕方まで授業があり、全て英語で薬学の授業を受けました。最初は英語が聞き取れず、授業中に積極的に発言できずにとっても悔しい思いをしました。しかし、少しずつ理解できるようになり、失敗を恐れず発言することができるようになりました。毎日ほんの少しずつ進歩がみられ、それによってより授業を楽しめるようになりました。また、病院見学や薬局見学、服薬指導のシミュレーションを通してアメリカと日本の薬剤師の違いを感じることができました。中でも印象的であったことは2つあります。まず1つ目は、アメリカでは薬剤師とは別にテクニシャンがいて、テクニシャンが処方箋のデータ管理や調剤面で薬剤師の仕事を補助しているということです。私は、テクニシャンの存在によって薬剤師がより臨床現場で活躍でき、それがアメリカの薬剤師の高い地位につながっているのではないかと感じました。2つ目は、処方箋の期限が1年でリフィル形式をとっているため、同じ薬であれば医師の診察がなくても薬局で薬を受け取ることができるということです。私はアメリカの薬剤師について以前から興味があったため、実際に自分の目で見て確かめら

れたことは大きな収穫となりました。

私は今回の留学に、英語で薬学を学び、アメリカの薬剤師の現場を知りたい、また自分を成長させたいという思いで参加しました。2週間という短い期間ではありましたが、毎日多くのことを学び、考えた時間は私にとってとても有意義なものとなりました。また、質問をされたときにすぐに自分の言いたいことをうまく伝えられないなど、留学を通して今後の課題も多く見つかりました。これからはこれらの経験やそのときに感じた気持ちを忘れずに、日々の勉強に励み、将来の自分に大いに生かしていきたいと思います。



ポストンのビーコンヒルにて

卒業後にやりたいことは何ですか

たなか めぐみ

田中 愛美



2016年 学部卒業
(薬剤学分野)

ライオン株式会社
薬品研究所 研究員

ライオン株式会社と聞くと、歯ブラシや洗剤をイメージするのでしょうか。実は、当社はバファリンなどのOTC医薬品も扱っています。私はライオンでOTC医薬品の「製品開発」をしています。製品開発とは、皆さんの生活をより良くする製品を世の中に届けるために、様々な実験データに基づいて製品の中身を考える職種です。自分が携わった製品がいつか皆さんの手に渡る日を楽しみに、日々仕事しております。

さて学生の皆さんは、卒業後にやりたいことを既にお持ちでしょうか。京都薬科大学の卒業生の進路は、病院や薬局、企業、官公庁など様々です。すでにやりたいことが明確な人は素晴らしいので、ぜひその夢の実現に向けて努力してほしいところです。「まだ何をしたいか分からない」という人も焦る必要はありません。私もそのうちの1人でした。でも今、私は「身近な製品から、健康の大切さを世の中に伝えたい」と思い、ライオンでそれを実現しています。私がこのような思いに至った2つのきっかけを紹介します。

1つ目は在学時のサークル活動です。そのサーク

ルには京都薬科大学以外にも様々な大学の学生が在籍し、薬学部以外の学生がほとんどでした。仲良くなった友人は薬や健康への興味がほとんど無く、「薬は2倍の量飲んだら2倍効くんじゃよ?」「体調を崩しても病院に行かない」などとびっくりするようなことを言われたのを覚えています。このような健康にあまり興味のない人たちにもずっと健康で元気に生活してほしいと感じ、健康に自然と興味を持てる世の中にしたいと思いました。

2つ目は薬局実務実習の在宅訪問実習での出来事です。在宅訪問先の高齢男性は、生活習慣病が原因で寝たきりになったため、「もっと若いうちから健康に気を遣えばよかった」と後悔の言葉を口にしていました。もちろん医療用医薬品で今の悪い状態を改善することも非常に大事なことです。私はこのような状態に出来る限りならないように病気を未然に防ぎ、元気な状態を維持できる身近な製品に携わりたいと考えました。

皆さんの学生生活も、講義や研究室、部活、アルバイトなど様々な経験をしていることでしょう。ただ皆さんには、楽しいだけの毎日を何も考えずにこなすのではなく、自分と向き合うことを意識しながら過ごしてほしいと思います。「自分はなぜこの部活・サークル・アルバイトを選んだのだろう」「自分はどんなときにやりがいを感じるか」と考える時間を少し作ってみてください。自分のやりたいことが見えてくるはずですよ。皆さんが卒業後に自分のやりたい仕事をして活躍されることを、心からお祈りしております。

第12回 自治会執行部主催 七夕企画

今年も7月初めから七夕当日にかけて、七夕企画を実施いたしました。愛学館入り口に笹を設置し、愛学館を訪れた方々に願い事を書いていただく企画です。期間は短かったのですが、勉強や部活動、私生活のことなどについて書かれた短冊がたくさん見られ、多くの方に参加していただけたことを実感し、嬉しく思います。

七夕企画実施にあたりご協力頂いた学生課、教育後援会の方々、並びに企画に参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。皆様の願い事が成就されますよう、自治会執行部一同祈願申し上げます。

市民組織『山科区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会』と共に小学生対象の理科実験講座「身近な夏の不思議体験2018イン山科」を開催しました。

地域の小学生に理科の楽しさを知ってもらいたいと始まった本講座は今年で8回目を迎え、山科区小学生の夏の恒例行事になっています。今年は台風12号の影響での7月29日（日）は午後の部のみ実施、中止になった午前の部は8月26日（日）に振り替えて行いました。



実習室に科学者のタマゴたちが集合

今年のテーマは「水」。抽選で当たった129名の小学生が白衣に身を包み、2つの実験を通じて科学の不思議を体験してもらいました。

最初の実験では『手でつまんで持てる水！容器がいない水を作ろう』と題し、海藻類の食物繊維であるアルギン酸を用いて、ぷるぷるの水ボールを作成してもらいました。アルギン酸溶液はカルシウムイオンと反応すると溶液の表面がゲル状に変化し、薄い膜ができてつかめるようになります。子どもたちからは「水の形がかわった！」、「きれいな球ができた！」と声が上がって、会場は大いに盛り上がりました。



カラフルな水ボールができました

次の実験『水が消えた!?水を吸う魔法の粉』では、携帯用トイレから取り出した「高吸水性ポリマー」の吸水性や保水性を観察した後、ポリマーを使ってカラフルな手作り芳香剤の作成してもらいました。自重の何十倍も水を吸収し膨らむ様子や、圧力をかけても離水しにくい保水力を観察し、感想を熱心に話し合っている様子が印象的でした。



高吸水性ポリマーの性質を確認しています

手作り芳香剤を作成してもらいました

実験後のアンケートでは「はじめてする実験ばかりで、みぢかな『水』なのにしらないことがいろいろありました」、「スタッフさんの話もおもしろかったし、こんな身近に理科を感じられたので、これからも理科を楽しみたいです」などの感想をいただきました。今年も参加した子どもたちに身近にある理科とその楽しさを実感してもらえたようで嬉しく感じています。

本講座は地域の方々と企画を作り上げていることが特徴の一つです。今回も企画立案の段階から対話を重ね、安全で円滑に実験が進むように工夫を凝らしました。また当日は約30名の地域スタッフが応援に駆け付け、子どもたちの実験をきめ細かくサポートしていただき活動を支えていただきました。市民組織『山科区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会』の皆様がこの場を借りて深く感謝いたします。

今後も地域に根差した大学の役割として近隣学区の児童の理科教育の一助となるよう、市民組織と共にこの取り組みを継続していきたいと考えています。なお、本講座は国立青年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施したことを申し添えます。



地域スタッフのサポートは欠かせません

第103回薬剤師国家試験（6年制薬学の7回目）が2018年（平成30年）2月24日、25日に実施されました。前回に比べ、全国全体（新卒・既卒、その他）の合格率は若干低下しましたが、全国新卒のみではほぼ同程度の合格率となりました。難易度に関しましては適切で、読解力、思考力、応用力を問う良問が多かったと判断されています。第106回から適用される「出題基準」や「改訂コアカリ」を意識した科目の壁を越えた連問など「総合的思考力」が必要となる問題が今回も出題されました。「物理・化学・生物」、「衛生」、「実務」の4連問、「薬剤」、「実務」の4連問および「薬理」、「実務」の4連問などであり、このような問題は今後増えていくことが予想されます。また、「物理・化学・生物」および「衛生」では第106回を見据え、医療または医薬と関連付けた問題が増えつつあります。薬剤師国家試験は、社会が求める薬剤師像に合った、また国が推進している地域包括ケアシステムにおける薬剤師の役割など医療現場において必要な知識を問う6年制薬学に相応しい内容に変化しています。

表1. 男女別、設置主体別合格率

区分	総数	男	女
出願者	14,876名	6,146名 (41.31%)	8,730名 (58.69%)
受験者	13,579名	5,495名 (40.47%)	8,084名 (59.53%)
合格者	9,584名	3,739名 (39.01%)	5,845名 (60.99%)
合格率	70.58%	68.04%	72.30%

区分	総数	男		女	
		出願者	受験者	出願者	受験者
6年制新卒	出願者	9,555名	3,652名 (38.22%)	5,903名 (61.78%)	
	受験者	8,606名	3,212名 (37.32%)	5,394名 (62.68%)	
	合格者	7,304名	2,772名 (37.95%)	4,532名 (62.05%)	
	合格率	84.87%	86.30%	84.02%	
6年制既卒	出願者	4,834名	2,200名 (45.51%)	2,634名 (54.49%)	
	受験者	4,577名	2,055名 (44.90%)	2,522名 (55.10%)	
	合格者	2,151名	907名 (42.17%)	1,244名 (57.83%)	
	合格率	47.00%	44.14%	49.33%	
その他	出願者	487名	294名 (60.37%)	193名 (39.63%)	
	受験者	396名	228名 (57.58%)	168名 (42.42%)	
	合格者	129名	60名 (46.51%)	69名 (53.49%)	
	合格率	32.58%	26.32%	41.07%	

区分	総数				6年制新卒				6年制既卒				その他			
	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率
国立	680名	649名	543名	83.67%	487名	478名	442名	92.47%	60名	52名	30名	57.69%	133名	119名	71名	59.66%
公立	299名	295名	254名	86.10%	229名	228名	217名	95.18%	32名	31名	12名	38.71%	38名	36名	25名	69.44%
私立	13,896名	12,634名	8,787名	69.55%	8,839名	7,900名	6,645名	84.11%	4,742名	4,494名	2,109名	46.93%	315名	240名	33名	13.75%
本学	408	374	322	86.10%	363	335	300	89.55%	35	34	22	64.71%	10	5	0	0.00%

さて、今回の試験では、国公私併せて73大学の学生が受験しました。14,876名が出願し受験者総数13,579名中、合格者は9,584名（合格率70.58%）でした。前回の合格率71.58%に比べて、1ポイント低下したことになります。6年制新卒の全国合格率は84.87%と僅かに低下しました（前回：85.06%）。また、6年制既卒者の合格率は47.00%と新卒に比べてかなり低く、前回（50.83%）に比べて約4ポイント低下しており、年々その合格率が下がる傾向にあります。本学では、新卒者335名が受験し、合格者は300名（合格率89.55%）、6年制既卒者は34名受験して合格者は22名（合格率64.71%）、4年制既卒者は5名受験して合格者は0名、本学総合合格率は86.10%（全国70.58%）で、全国総合15位（73校中）でした。この学年は、CBT等の成績から心配された学年でしたが、ここまで学年全体の成績が伸びた要因として次のことが挙げられます。1) 各自危機意識を持って学修に取り組んでいた、2) 2017年度の薬学演習（対象者：実力試験および評定平均の下位学生）では主体的な学びを促すべく、事前課題および必須問題作成を課した、3) アドバンスト薬学（6年次後期開講科目）終了後、その日に学んだ内容に関する演習問題に主体的に取り組んでいた、4) 学生に関する情報（出席状況、指定学生の課題取り組み状況、模擬試験の成績等）を、当センターと分野・センター間で共有し、細やかな指導ができていた、5) 当センターでの質問対応や個別の学修相談、また模擬試験の成績下位者に対する面談による現状の把握と意識改革を促すなどして包括的学修フォローアップを行ったことなどです。

次に、今春卒業した本学6年制7期生の評定平均と国家試験合格との関係性を調べてみました。表2 に示しますように、評定平均と卒業・合格率との間に明確な相関が見てとれます。即ち、評定平均が下がるにつれて、卒業率・合格率が低下傾向にあるのはこれまでと同様です。このことは、1年次からの日頃の学修の積み重ねが如何に大切かを物語っています。また、評定平均85点以上の卒業生は全員合格していますが、80点前半でも卒業留年および不合格となった学生がいるのは気になることです。単位を取得するための勉強に終始するのではなく、学問に興味を抱き、普段から国家試験等を見据えた学修意識を持つことが肝要と考えます。

表2. 評定平均と合否との関係

評定平均 ※1	学生数 ※2	卒業生	合格者	不合格者	卒業・合格率
95点以上	1	1	1	0	100.0%
90点以上95点未満	8	8	8	0	100.0%
85点以上90点未満	19	19	19	0	100.0%
80点以上85点未満	47	46	45	1	95.7%
75点以上80点未満	94	91	89	2	94.7%
70点以上75点未満	103	99	89	10	86.4%
65点以上70点未満	88	70	49	21	55.7%
65点未満	4	1	0	1	0.0%

※1 専門必修講義科目の平均点
 ※2 休学者1名を除く

本学6年制7期生に対しても、昨年度と同様に今後の教育および国家試験対策に利活用する目的で、国家試験の解答データ入力への協力を要請したところ、335名の受験者中300名（入力率89.6%）の協力があり、前回（82.2%）に比べて入力率の改善がみられました。表3に示しますように、本学総合正答率は71.76%と前年度（73.39%）に比べて約1.5ポイント低下しました。平均正答率30%未満の問題が26題（前回21題）あり、その内訳は必須問題で1題（前回1題）、理論問題で14題（前回12題）、実践問題で11題（前回8題）でした。また、科目ごとの正答率を比較しますと、物理・化学・生物の一般問題（理論問題、実践問題）および病態・薬物治療の一般問題（理論問題、実践問題）が他の科目に比べて正答率が低いものでした。特に、病態・薬物治療では、理論問題としてADHDなどの新規疾患の出題や検定の問題が多く出題され、また、実践問題では検査値から詳細を読み解く出題が多かったことや希少疾患に関する出題もあり、このような問題が難易度を上げたことが、比較的低い正答率となった要因であると推察されます。

表3. 科目別・問題区分別平均正答率

問題区分	必須問題							
	科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務
問題数	15	10	15	15	15	10	10	90
最低点	9	3	6	8	8	4	3	56
平均点	13.4	8.2	12.9	12.9	12.0	7.9	7.6	74.9
最高点	15	10	15	15	15	10	10	88
平均正答率	89.2%	81.8%	86.2%	85.8%	80.2%	79.2%	76.2%	83.3%
学内全体（新卒）								82.74%
全国（新卒）								82.34%

問題区分	理論問題						
	科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理
問題数	30	20	15	15	15	10	105
最低点	4	8	3	4	4	0	42
平均点	13.4	14.1	11.3	9.6	9.0	8.5	65.9
最高点	25	19	15	15	13	10	93
平均正答率	44.8%	70.4%	75.6%	63.7%	59.7%	85.5%	62.8%
学内全体（新卒）							62.94%
全国（新卒）							60.82%

問題区分	実践問題									
	科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計	総合計
問題数	15	10	10	10	10	10	10	85	150	345
最低点	2	4	3	2	1	5	44	79	182	
平均点	9.8	7.5	7.8	6.9	5.2	9.0	61.2	107.3	248.1	
最高点	15	10	10	10	10	10	74	131	311	
平均正答率	65.0%	74.6%	78.1%	68.5%	52.0%	89.6%	72.0%	71.5%	71.9%	
学内全体（新卒）								71.35%	71.76%	
全国（新卒）								69.52%	70.22%	

<第104回薬剤師国家試験に向けて>

第104回国家試験から禁忌肢問題（いわゆる「地雷問題」）が設定されます。つまり、これらの問題を一定数間違えると不合格となります。想定されることとして：①倫理的に誤った内容、②患者に対して重大な障害を与える危険性のある内容、などです。何問選ぶと、不合格となるかは明らかになっておりません。これまでの国家試験では、分からない問題に対して、適当に番号を選ぶことができましたが、第104回からはそのようなことができなくなるのです。確かな知識を身につけることが重要なのです。まずは、苦手あるいは弱点と考えられる科目から始めて苦手意識を払拭することが肝要です。基礎系科目、すなわち物理・化学・生物は定着するには時間がかかるため、反復学修が重要となります。また、薬理は国家試験において、合格者と不合格者との正答率の差が最も大きい科目の一つであることがデータ分析で判明しています。国家試験では内容が偏ることなく出題されますので、重要項目を中心に理解しながら勉強することが大切です。今、成績がよくない、あるいは先行き不安であると感じている学生は、これまでの勉強方法に問題点はないか検証し、実効性のある勉強法の確立を目指しましょう。普段から、友達と一緒に勉強し、教え合うことも効果的な学修方法です。薬学教育研究センターではPCまたはスマートフォンを使った自己学修プログラムを用意しております。これらを主体的に学ぶきっかけとしていただきたいと思います。各教科の内容に関する質問についてはオフィスアワーを、また学修に関する悩み相談については薬学教育研究センターの『学びコンシェルジュ』を是非利用して下さい。何事も早めの行動が重要です。悔いのない充実した学生生活を送っていただくために当センターを是非ご利用下さい。

本学では、優秀な人材の育成、成績向上並びに活力の醸成を図ることを目的に、給付型奨学金制度を設けております。今年度は、合計136名（入試成績優秀者10名、大学院入試成績優秀者3名、学部成績優秀者75名、遠隔地出身者40名、研究・課外活動優秀者8名）の奨学金が選出され、奨学金が給付されました。表彰式は、7月2日（月）に執り行われ、土屋理事長から表彰状が授与されました。

2019年度からは、現奨学金制度を改定し、優秀な人材の獲得・育成のための「特待生制度（学部入試成績優秀者）」及び、入学前に採用が確定する経済的支援のための「遠隔地出身学生 新入生予約制度」（所得基準あり）を実施いたします。

学生の修学支援のためのこれらの奨学金は、卒業生（京薬会会員）、法人役員、職員、ご父母（教育後援会会員）の皆様からのご寄付により成り立っております。

皆様からの多大なるご協力に紙面をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

入試成績・成績優秀者						
学部新入生	学部在学学生					
	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
川田 真太郎						
相楽 真太	足立 真奈	赤井 里冴	石井 沙季	岩崎 年示	岡山 雅美	
澤田 果奈	石田 ゆり	新本 雄基	内海 慈乃	上野 花純	金田 彩花	
戸井 真也	内山 沙也	池上 晴香	胡井 愛	岡田 麻里奈	川田 奈実	
長井 皓平	鎌田 真央	生駒 直樹	太田 千佳子	奥 大輝	河村 友惟	
古田 雄亮	北川 幸太	井上 拓美	岸本 滝世	川崎 那奈	川本 直子	
村上 博哉	木下 晴菜	大嶋 智子	黒崎 楓夏	北野 美鈴	許 千晴	
元木 香織	國分 麻衣	加屋 優希	小林 明梨	久保田 知沙	熊野 瑛巴	
山内 玲佳	坂井 京子	高田 真優子	武貞 有芳	佐藤 未来	小畑 久美	
横畠 綾音	澤田 哲平	高畑 祐香	辻谷 優菜	塩見 典大	齋藤 菜月	
	竹田 侑生	出口 和貴	中澤 孝佑	瀬良 郁実	柴田 かおり	
	西川 美緒	富田 萌映	中野 友絵	中嶋 雅幸	杉山 絢香	
	藤本 和也	中井 亮太	中村 元	平石 沙織	田中 美咲	
	松山 千夏	早田 真理子	野口 裕美子	柳本 嘉希	田中 佑果	
	安川 美優	藤井 日加里	原柁 幸汰	山岸 あかね	中小路 千晶	
	山下 実香子	堀内 南瑠	吉岡 希恵	吉澤 正人	村上 穂波	

研究・課外活動優秀者

相馬 瑛美	西口 祐太
安藤 翔太	長谷川 雅樹
北村 卓巳	福井 真優
米岡 那夏子	森田 貴子

遠隔地出身成績優秀者

1年次	2年次	3年次	4年次
池戸 彩七	植松 美帆	岡崎 彩香	青木 麻琴
儀間 芹菜	岡本 仁志	小山 未来	蒲田 歩美
木村 仁美	葛原 寛子	酒井 智帆	白岩 泰祈
近藤 彩音	黒川 真由	島 千晶	高橋 みのり
佐々木 美音	重岡 美玖	嶋田 佳子	中村 友香
島田 凱洋	田中 里奈	野田 早紀	野津 薫乃
田所 史帆	野田 悦子	伴 美咲	松尾 直弥
宮本 早也佳	林 真帆	山下 真歩	水野 友貴
目黒 絢音	深町 駿太	横川 碧	森田 みつき
若林 実来	山本 祐奈	吉岡 綾音	八島 有彌

今年度の研究・課外活動優秀者の活動実績一覧について、ご紹介します。

- 6年次 あんどう しょうた 安藤 翔太
『オープンキャンパス・母校訪問を通じて京都薬科大学及び薬学部の広報に貢献』
- 6年次 きたむら たくみ 北村 卓巳
『給付型奨学生を自覚して過ごした1年間で得た経験と
学生チャレンジ事業によるディスクゴルフの活動記録』
- 5年次 よねおか ななこ 米岡 那奈子
『随心院ミス小野小町の活動を通して山科の地域活性化に貢献』
- 4年次 そうま えみ 相馬 瑛美
『薬物乱用防止啓発運動に参加することで見えた薬剤師の社会的役割に対する展望』
- 4年次 にしぐち ゆうた 西口 祐太
『第71回関西薬学生連盟剣道大会 男子団体優勝』
- 4年次 はせがわ まさき 長谷川 雅樹
『男子バレーボール部での部活動改革（技術・栄養指導など）』
- 4年次 ふくい まゆ 福井 真優
『京都薬科大学の学内ジョブに積極的に参加し、大学貢献を果たした』
- 2年次 もりた あつこ 森田 貴子
『子どもと医療に関するボランティア活動に積極的に参加』



2018年度 給付型奨学生表彰者

NEWS お知らせ

京都薬科大学 京薬論集刊行会主催 第16回「文化講演会」のお知らせ

日 時：2018年11月11日(日) 14:00～16:00

会 場：京都薬科大学 本校地 Q21講義室（予定）

講演者：有本 收氏（京都薬科大学 基礎科学系物理学分野 教授）

演 題：ダイヤモンドは永遠に

講演者：中川 泰彰氏（国立病院機構京都医療センター 外科系統括部長兼スポーツ医学センター長）

演 題：ドーピングと相撲を交えたスポーツ医学のお話

※予約不要・聴講無料です。

～ 8月のオープンキャンパス ～

8月4日（土）・5日（日）の2日間、オープンキャンパスを開催しました。

両日とも例年になく酷暑にもかかわらず、1,656名（前年比：89.1%）の参加者がありました。創立130周年記念館を会場として「学長メッセージ」、「大学紹介」、「在学生の話」を実施し、その後、「体験実習」、「施設見学」、「相談会」を行いました。「在学生の話」は、6年次生の古池志織さんと平井里沙さんの2人に講演してもらい、両日とも好評でした。

参加者からは、大学紹介について「大学の目指す方針などがよく分かった」、在学生の話については、「実際の研究や大学生活が充実していることが分かりとても参考になった」、体験実習については、「貴重な体験ができ、在学生と交流もできて良かった」などの声がたくさんありました。また、施設見学については、

「自分で見て回るより、詳しいことが知れた」などの声が多く聞かれました。

また、今年度新たに加わった学生による企画「学生トークライブ」では、大学での学びや京薬生の学生生活、高校とは何が違うのかなど在学生がわかりやすく紹介をして、大盛況となりました。参加者からは、「受験時のエピソード・夏休み以降の受験勉強法は参考になりました」「京薬の魅力が伝わった」「学生の普段の様子がよくわかった」「モチベーションが上がりました」「他大学にない企画で、在学生の生の声が聞けてよかった」などの声が寄せられました。

今後も、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

■ 2018年8月のオープンキャンパス参加人数

日程	受験生	付添者・保護者等	合計	2017年度
2018年 8月4日 午前	372	225	597	684
午後	124	84	208	290
小 計	496	309	805	974
2018年 8月5日 午前	312	239	551	623
午後	179	121	300	261
小 計	491	360	851	884
2018年合計	987	669	1,656	1,858
2017年度	1,084	774	1,858	



学長メッセージ

■ 2018年8月のオープンキャンパス集計結果（受験生）

※有効回答アンケート数：571

Q1 オープンキャンパスを何で知りましたか？（複数回答）				Q2 オープンキャンパスに参加された目的をおしえてください（複数回答）			
No.	回答	件数	(全体)%	No.	回答	件数	(全体)%
1	本学のホームページ	379	66.4%	1	キャンパス・校舎・食堂など施設・設備の確認	429	75.1%
2	高校の進路指導や資料	105	18.4%	2	実験・研究などの施設・設備の確認	282	49.4%
3	家族・親戚	101	17.7%	3	入試情報の確認	241	42.2%
4	オープンキャンパスのチラシ・DM	80	14.0%	4	キャンパス周辺の街並みや環境の確認	175	30.6%
5	先輩・友人・知人	64	11.2%	5	授業内容の確認	148	25.9%
6	LINE@	24	4.2%	6	研究内容の確認	146	25.6%
7	塾・予備校	20	3.5%	7	大学の教育理念・方針、将来構想の確認	130	22.8%
8	その他	10	1.8%	8	就職状況や進路指導の確認	120	21.0%
9	受験雑誌など	3	0.5%	9	薬剤師国家試験対策についての確認	112	19.6%
10	新聞	0	0.0%	10	薬学6年制の確認	109	19.1%
				11	学費・奨学金・アルバイトなどの確認	88	15.4%
				12	病院・保険薬局実務実習の確認	75	13.1%
				13	クラブ・サークル活動などの確認	67	11.7%
				14	在学生の確認やコミュニケーション	59	10.3%
				15	学生相談・サポート体制の確認	31	5.4%
				16	その他	15	2.6%
				17	教育職員及び事務職員の確認や相談	14	2.5%

■ 2018年8月のオープンキャンパス集計結果（受験生）

Q3 本学を受験する場合、どの方式での受験をお考えですか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	B方式(本学独自)	220	38.5%
2	検討中	215	37.7%
3	推薦入試	196	34.3%
4	A方式(センター前期)	168	29.4%
5	C方式(センター後期)	27	4.7%

Q4 オープンキャンパスに参加して、京都薬科大学への受験意欲はどのように変わりましたか？

No.	回答	件数	(全体)%
1	とても高まった	291	51.0%
2	少し高まった	222	38.9%
3	変わらなかった	46	8.1%
4	少し減退した	1	0.2%
5	とても減退した	0	0.0%



学生企画の様子



施設見学の様子

NEWS 京薬会だより

<平成30年度京薬会支部総会の開催状況>

愛媛支部(6/17)、岐阜支部(7/1)、兵庫支部(7/8)、鹿児島(8/26)、北海道支部(9/9)、岡山支部(9/29)、がすでに開催され、今後は大阪支部(10/21)、九州支部合同(10/28)、大分支部(11/3)、京都支部(11/4)、愛知支部(11/4)、滋賀支部(11/18)の各支部総会開催が予定されています。京薬会より会長、副会長をはじめとする幹事、また大学より理事長、学長にもご参加いただき、各地で大学と地域の交流を深めております。

<京薬祭とホームカミングデー>

今年度も京薬祭に合わせて11月4日(日)に、今年で第9回となる京薬会主催の「ホームカミングデー」を開催します。ホームカミングデーは年々参加者が増え、昨年も多くの卒業生の皆さんのご参加をいただきました。

本年は後藤学長による大学の近況の紹介に加え、本学 統合薬科学系教授 高田 和幸氏に「iPS細胞と再生医療」〈仮題〉について講演を頂きます。当日は京都、愛知両支部が京薬祭、ホームカミングデーに合わせて総会を開催します。また、現役学生との交流など楽しいホームカミングデーにしたいと考えています。そのために先着100名の卒業生の方に学園祭模擬店で使用できる1,000円分のチケットを差し上げますので多数の皆様のご来場・ご参加をお待ちしております。

詳しくは京薬会誌8月号、ならびに京薬会ホームページをご覧ください。

現在申込受付中、および今後申込受付を開始する研修会をご紹介します。
皆さんの参加をお待ちしています。

●「eラーニング講座」 ※申込受付中です

本学で開催した「卒後教育講座」を、著作権・プライバシー等に抵触するスライドや音声を編集し、WEB公開します。今年度から、直近3年間のコンテンツを配信します。配信期間中、何度でも視聴できます。

*配信期間：2018年11月1日(木)～2019年1月31日(木)

*受講料：15,000円(視聴及びPDF資料ダウンロード)

*申込受付期間：2018年8月29日(水)～2018年10月22日(月)

*認定単位：1単位/1コンテンツ 京都薬科大学認定単位G24

☆1コンテンツごとに確認テストを実施し、正答率2/3以上で合格とし1単位を配付します。テストは合格するまで複数回受験できます。

☆認定単位は、1ヶ月ごとにまとめて送付します。

☆過去にeラーニング講座や卒後教育講座を受講して既に認定単位を取得しているコンテンツは、視聴はしていただけますが、認定単位の配付はありません。

No.	コンテンツ名	講師	開催年度
1	アレルギー疾患に関わる薬剤師の役割 ～小児アレルギー疾患を中心に～	小児臨床アレルギー学会理事/すずらん調剤薬局 管理薬剤師 京都薬科大学特命教授 上荷 裕広 先生	2018
2	高血圧診療アップデート	京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学・腎臓内科学 教授 的場 聖明 先生	
3	心疾患治療の進歩と望まれる薬物療法	京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学・腎臓内科学 教授 的場 聖明 先生	
4	理想と現実から考える糖尿病薬物療法のありかた	京都第二赤十字病院 糖尿病内分泌・腎臓・膠原病内科 部長 長谷川 剛二 先生	
5	AMR対策に薬剤師として関わるために必要なTips	京都薬科大学 臨床薬剤疫学分野 教授 村木 優一 先生	
6	AMR対策に必要な耐性菌の基礎知識	京都薬科大学 学長 後藤 直正 先生	
7	多発性骨髄腫における診療の進歩	独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター 院長 島崎 千尋 先生	
8	脳梗塞急性期治療と慢性期再発予防	京都第二赤十字病院 脳神経内科 部長 永金 義成 先生	
9	薬剤師のための臨床感染症学～外来編～	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院 総合内科/感染症科 部長 神谷 亨 先生	2017
10	病床再編成と地域包括ケアシステムに向けた患者情報の共有化	京都大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長 松原 和夫 先生	
11	小児薬物療法にかかわるために－医薬品の適正使用のために－	東京理科大学 薬学部 臨床教授 小高 賢一 先生	
12	薬剤師による緊急対応について ～いざという場合に求められる行動のために～	近畿大学 医学部 救急医学 窪田 愛恵 先生、主任教授 平出 敦 先生	
13	漢方医はどう考え処方につなげるのか	明德漢方内科 院長 篠原 明德 先生	
14	薬と患者をつなぐ医療－糖尿病医療学の世界	奈良県立医科大学 糖尿病学講座 教授 石井 均 先生	
15	くすりの費用対効果評価とは？ －「やるリスク」から「やらないリスク」へ－	東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学寄付講座 特任准教授 五十嵐 中 先生	2016
16	不眠症薬物療法の最新トピックス	滋賀医科大学医学部 睡眠行動医学講座 特任教授 睡眠センター センター長 角谷 寛 先生	
17	地域包括ケアシステムの完成に向けて ～三方よし研究会の試み～	医療法人社団 小串医院 理事長 NPO法人 三方よし研究会代表 小串 輝男 先生	
18	がん薬物療法の最新の話	京都大学大学院 医学研究科 腫瘍薬物治療学講座 准教授 松本 繁巳 先生	
19	緩和医療	大阪府済生会野江病院 消化器外科 副院長兼部長 足立 幸人 先生	
20	婦人科疾患と漢方	関西医科大学総合医療センター 産婦人科 医師 梶本 めぐみ 先生	

●実務支援セミナー 「注射薬の無菌混合調製演習」

実際にクリーンベンチ、医薬品等を使用した実習です。

リピーターの受講可ですが、注射薬無菌混合調製の経験が少ない方を対象とします。

- *開催日時：2019年2月24日（日）12：00～17：00
- *開催場所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 2階 R23演習室・1階無菌室
- *講師：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 本橋 秀之 先生 他
- *定員：20名（薬剤師限定） ※定員に達し次第、〆切とさせていただきます。
- *受講料：5,000円（テキスト代含む）
- *認定単位：3単位 京都薬科大学認定単位G24
- *申込受付期間：2018年12月5日（水）～2019年2月11日（月）

時間	内容
12：00～12：05	開講挨拶
12：05～12：45	導入講義
12：50～16：45	衛生的な手洗い、薬液の採取、陰圧操作、注射混合調製、アンプル・バイアル調製、配合変化
16：50～17：00	講評

<申込方法>

ホームページ「開講プログラム」の各プログラム「詳細・申込」バナーよりお申込みください。

<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>



生涯教育センター
トップページ



eラーニング
申込ページ



実務支援セミナー
申込ページ

●第24回 京都薬科大学 公開講座

（主催：京都薬科大学 後援：京都市 協力：京都府）

- *日時：2018年10月20日（土）13:00～16:30
- *場所：京都薬科大学 愛学館 3階 A31講義室
- *参加費：無料
- *プログラム：第1部：講演（13:00～14:30）
 1. 『人名に見るドイツ人氣質（かたぎ）』
京都薬科大学 准教授 桑形 広司
 2. 『賢い患者になろう～正しい薬の飲み方～』
京都薬科大学 教授 楠本 正明
- 第2部：見学（14:50～16:30）
薬用植物園御陵園（解説付）薬草の見学、効能説明など
☆スニーカーなどの歩きやすい靴でお越しください。



公開講座
案内ページ

●問合せ先

京都薬科大学 生涯教育センター

*E-mail: skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

*TEL: 075-595-4677（平日 9:00～16:00）

*FAX: 075-595-4683

■ 自分との付き合いについて

自分を大切にできておられますか？

そう問われて、皆さんはどう答えられるでしょうか。学生相談室では、自分にとっても厳しい目を向けている学生の方に出会うことがあります。自分の理想やこうあるべきというイメージを追い求めるあまり、それにそぐわない自分を否定したり切り捨てようとしていたりして、自分を粗末に扱ってしまっている方に出会うことがあります。今、この文章に目を通しておられるあなたは如何でしょうか。

大切にできていないと思われた方の中には、自分に認めがたい、好きになれない部分を抱えて苦しんでいる方がおられるかもしれません。その部分をどうしても受け容れられない、排除したい気持ちになっておられるかもしれませんが、その部分もあなたを構成しているかけがえのないパーツであり、何とか折り合いをつけて付き合っていくことが求められることがあると思います。自分の嫌いなどところとも折り合いをつけながら自分と付き合っていくことは、自己否定にはまりこんでしまわずに自分を育てていく成長のプロセスでもあります。自分を嫌悪し、粗末に扱うことで、さらに自分を萎縮させ、自己評価を下げたしまい、成長の道を阻害してしまっていないでしょうか。

理想の達成に尽力しようという意識の強い方は、自分に不足しているものやできていない部分に目が向き

がちになるために現在の自分を否定的に評価する傾向があります。自分への駄目出しが多くなりがちで、正當に自分を評価できずに自信を損なってしまうことがあります。成長や変化を目指すあまりに駄目出しばかりされては疲弊する一方で、実現の希望が損なわれたり頑張る気力や意欲も失われたりしかねません。

自分を大切にできていないと思われた方、自分を認められないと思っている方は、自分の嫌いな部分・不出来と思われる部分にばかりに着目するのではなく、少し離れて自分を見つめ直してみませんか。自分の好きなどところ（好きなどところなんてないと思われる方でしたら悪くないと思えるところでも良いと思います）、これまでやってきたこと、自分の能力、事の大小に関わらず成長や変化があったことなどに目を向け、自分との付き合い方について改めて考え直す機会をつくってみては如何でしょうか。

そうはいっても、自分をどうしても否定的にしか見ることができない、肯定的な面を自分ひとりでは見つけられそうにない場合もあるかもしれませんね。そんなときは、信頼できる方に相談したり、学生相談室を利用したりすることを考えてみていただけたらと思います。

(臨床心理士 建部 有里)

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。

相談は臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。

また、学生相談室内にサロンを設置し、開室時に開放しています。疲れたときやほっとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

- ・開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15
- ・電話：075-595-4672
- ・メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

2018年6月26日（火）・27日（水）の2日間にわたり、6年次生の卒業論文発表会を創立130周年記念館にて開催しました。グローバル人材育成の一環として、全員が英語でのポスター作成・発表・質疑応答を行いました。6年次生は、海外学術交流協定校からの招待者（8校25名）、外国人留学生、大学院生等と活発な意見交換を繰り返し、活気あふれる発表会となりました。

発表会では、特に活発な発表を行った学生約90名に、海外学術交流協定校の先生方から発表会終了後に開催する“The Get-Together Party”への招待状が授与され、パーティーで親交を深めることとなりました。

〈スケジュール〉

	日時	系	分野
6月26日	第1部 13：30～14：50	生命薬科学	衛生化学、公衆衛生学、微生物・感染制御学 細胞生物学、生化学、病態生理学
		分析薬科学	薬品分析学、代謝分析学、薬品物理化学
	第2部 15：10～16：30	病態薬科学	病態生化学、薬物治療学、臨床薬理学 薬理学、臨床腫瘍学
	第3部 16：50～18：10	医療薬科学	薬剤学、薬物動態学、臨床薬学
		基礎科学	健康科学
		薬学教育	臨床薬学教育研究センター、情報処理教育研究センター
	附属施設	薬用植物園	
6月27日	第1部 13：30～14：50	創薬科学	薬化学、薬品製造学、薬品化学、生薬学



会場の様子



発表風景

NEWS お知らせ

■ 2018年度 学位記授与式（前期）及び2018年度 大学院博士課程秋季入学式

9月28日（金）午後3時30分から愛学館7階の第1会議室において、2018年度 学位記授与式（前期）が執り行なわれ、後藤学長から、課程博士3名に学位記（博士）が授与されました。

また、学位記授与式に先立ち、本年度後期より薬学専攻博士課程の学生を迎えることとなり、同日3時より秋季入学式が執り行われました。



作品名 「切磋琢磨」
 作者 長井長義
 規格 縦244mm
 横1,032mm

筆者の「朴堂（ぼくどう）」は、長井長義（ながい ながよし 1845～1929年）のこと。長井は、徳島藩医の家に生まれ、1870年（明治3年）に明治政府の第1回国費留学生に選ばれて渡独した。麻黄の成分エフェドリンの発見者で日本薬学会初代（終身）会頭。日本近代薬学の開祖と言われている。

「庚申一月 七十六翁」とあるから、1920年（大正9年）、長井が数え76歳の時の書とわかる。前年4月に京都薬学専門学校が開校されているので、祝意の意味で寄贈されたものと推定できる。本作品については、「薬局」（2007 Vol. 58 No. 10 2837）誌上において当時の同志社女子大学薬学部教授岡部進氏（元本学教員）が、“エフェドリンの抗喘息効果の発見”と題して書かれている中の「長井長義の胸中」の章に、「京都薬大の会議室の壁には、長井長義の揮毫（きごう）が飾っており、筆者は会議の度に、その揮毫を仰いだものだ。〔中略〕実に見事な筆跡で、「切磋琢磨」の4文字に身が引き締まったものだ。」と書かれている。

なお、日本薬学会は、現在も初代会頭長井博士の偉大な研究業績を記念した薬学研究者育成のための大学院生研究奨励支援（長井記念薬学研究奨励支援事業）を行っている。

NEWS 人事異動

採用

創薬科学系薬化学分野 助教 浜田 翔平
 統合薬科学系 助教 西村 周泰
 （任期：2018. 7. 1～2023. 6. 30）
 （契約事務職員）
 事務局進路支援課 永島真由実
 （契約期間：2018. 7. 1～2019. 6. 30）

昇任

薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 講師 松村千佳子
 （任期：2018. 7. 1～2023. 6. 30）

配置換

事務局企画・広報課 主査 谷垣 朱美
 （前事務局進路支援課）
 事務局進路支援課 主査 神田 悟
 （前事務局企画・広報課）
 （以上2018. 7. 1付）

退職

病態薬科学系臨床腫瘍学分野 教授 吉貴 達寛
 （2018. 8. 22逝去）

NEWS クラブだより

合唱部（ユーベルコール）

2018年度のこれまでの活動として、4月に入学式で学歌を斉唱し、5月には第55回京都合唱祭に出演しました。写真は合唱祭での歌唱後に撮影したものです。

〈今後の活動予定〉

10月 第14回コーラスフェスティバルin山科・醍醐出演
 11月 京薬祭で模擬店出店・ミニコンサート開催
 3月 卒業式で学歌斉唱

普段の練習は毎週水曜日の16:00～20:00に奏楽館共同練習場にて行っています。和気あいあいと楽しく練習していますので、是非私たちの歌声を聴きにきてください。



日本薬学会 第8回全国学生ワークショップに参加して

Report

生薬学分野 6年次生 柴田 かおり

この度、8月11・12日に東京府中で開催された日本薬学会第8回全国学生ワークショップ（WS）に参加させていただきました。「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと～将来への想いを共有しよう～」と題し、6年間の薬学教育を通して身につけたこと、できなかったこと、将来の薬剤師の姿について、全国71大学71名の薬学生とともに小グループで討論しました。時間が経ってしまうのが惜しい、と終始感じるほど楽しくて有意義な時間を過ごすことができました。討論する中で他学生の考え方の多様性や視野の広さを感じ取り、自分の中に新たな視点を見出すことができました。また、今まで勉強してきた意義を見出すと同時に、自分で考えること、自分の意見を発信すること、人の意見に耳を傾けることの重要性を実感しました。

正直、今までの大学生活は、勉強の大変さのあまり何を目標しているのか見失いそうになったこともあります。薬剤師を取り巻く社会、制度を目の当たりにし、活躍の場にある様々な障壁の存在が将来に希望を見いだせない要因でもありました。同じように思っている薬学生は意外と多いのではないのでしょうか？でも、今なら薬学の未来は明るいと自信を持って言えます。本WSで出会ったのは、現状では満足せず未来を見据え、様々なフィールドで胸を張って活躍しようという志を持つ薬学生たち、薬学の未来を見据えて未来の薬剤師を育てようとする熱意あ

ふれる教育者の先生方ばかりでした。このような方々が全国にいることを知り、薬学の未来に希望を見出すことができました。また、薬剤師の活躍の限界を感じるのは、受け身の姿勢が原因であることに気づかされました。現状の薬

学教育、薬物治療は、過去の誰かが社会を動かし、エビデンスを作り、享受してくれたものです。今ある諸問題は、それを仕方ないと受け入れるのではなく、私たちが解決し、未来につなげるべきです。AIが進歩し薬剤師の仕事が乗っ取られるのではとの懸念、調剤報酬に左右される現状、医薬分業のメリットを十分に国民に享受できていない現状、すべては私たち若い世代が危機意識を持ち、主体的に行動することで変わるのではないのでしょうか。AIに乗っ取られそう…ではなく、AIを利用して今まで注力できなかった対人業務を強化しよう、制度が変わらなければ仕方ない…ではなく、制度が変わるようなアクションを臨床現場から発信しよう、というように。

私は、社会の制度に左右されて妥協するなど、受け身になるのではなく、薬の専門家としての覚悟と責任を持って、主体的な考え方、行動により社会貢献できる薬剤師を目指したい、また未来の薬剤師の教育にも携わりたいと強く思います。この投稿により、私が本WSを通して感じたこと、学んだことがひとりでも多くの京薬生に伝われば、と思います。最後に、このような素晴らしい機会を与えて下さった大学、日本薬学会の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



グループのメンバーと
（筆者：前列右）



討論の様子

薬物治療学分野 教授 加藤 伸一

2018年6月16日（土）に本学愛学ホールにて私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノDDSの創成」の成果発表会を開催しました。本プロジェクトは、平成25年度から5年間の計画で研究活動が実施され、本年3月末で終了しました。本成果発表会では、11名の研究参画者が5年間の研究成果について口述発表を行いました。

当日は41名の参加者のもと、活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに終了しました。内容的にも、多くの興味深い研究成果が報告され、また一部は共同研究として、さらには現在進行中の研究も紹介されました。生体内の微小環境情報の解析やそれらの情報に基づくインテリジェントナノDDSの創成に関する研究を進める上での研究基盤の形成という目的は、本事業において十分に果たせたものと考えております。今後も、本研究基盤のもと、さらなる研究の発展が期待できるものと思われまます。

■ プログラム

日時：2018年6月16日（土） 13：30～17：00
場所：京都薬科大学・愛学ホール A31講義室

開会の挨拶

後藤 直正 学長

テーマ1 「疾患微小環境の特異的特性の探索」（司会：薬物治療学分野 加藤 伸一 教授）

加藤 伸一（薬物治療学分野）

「炎症性腸疾患および大腸炎関連がんの病態における腸管マクロファージに発現する
NOX1/NADPH oxidaseおよびTRPV4の役割」

大矢 進（名古屋市立大学大学院医学研究科 薬理学分野）

「炎症性疾患の創薬標的としてのイオンチャンネル」

林 直樹（微生物・感染制御学分野）

「腸管微小環境モデルを用いた緑膿菌によるトランスロケーション機構の解析」

テーマ2 「微小環境応答性インテリジェントナノDDSの開発」（司会：薬剤学 山本 昌 教授）

勝見 英正（薬剤学分野）

「機能性ナノ粒子のDDS開発によるがん転移治療戦略」

武上 茂彦（薬品分析学分野）

「温度応答性脂質ナノエマルジョンおよびイオン液体サブミクロン粒子の開発に関するNMR研究」

小暮健太郎（徳島大学大学院医歯薬研究部（薬学域）衛生薬学分野）

「微小環境応答性インテリジェントナノDDSの開発」

濱 進（薬品物理化学分野）

「微小環境に応答するリポソーム型ナノDDSの開発」

テーマ3 「疾患微小環境におけるナノDDSの機能評価」（司会：細胞生物学 藤室 雅弘 教授）

藤室 雅弘（細胞生物学分野）

「B細胞性リンパ腫に対する抗腫瘍剤の探索とB型肝炎ウイルス粒子（HBV-VLP）のDDSへの応用」

西口 工司（臨床薬学分野）

「がん微小環境が及ぼす抗がん剤耐性の増強とそのメカニズムの解明」

齊藤 洋平（生化学分野）

「がん微小環境における熱ショックタンパクの発現制御機構および機能の解明と評価系の構築」

長澤 一樹（衛生化学分野）

「白金系抗がん剤オキサリプラチンのリポソーム製剤化に伴う副作用発現プロファイルの変化」

閉会の辞

研究代表 加藤 伸一 教授



後藤 直正 学長



加藤 伸一 研究代表



大矢 進 先生



林 直樹 助教



山本 昌 教授



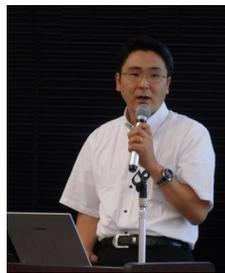
勝見 英正 准教授



武上 茂彦 准教授



小暮 健太郎 先生



濱 進 講師



藤室 雅弘 教授



西口 工司 教授



齋藤 洋平 助教



長澤 一樹 教授

これまでに開催されたセミナーにおいて、本誌に未掲載の報告書は以下よりご覧いただけます。

セミナー名	開催日	詳細	URL
「優良和薬の確保・供給のための研究」成果発表会	3月9日		https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/project2/pdf/20180309report.pdf
「地域医療機関合同セミナー」	4月26日		https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/pdf/20180426_report.pdf
第8回 KPU-OHP臨床医薬カンファレンス	7月11日		https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/kpu-ohp/pdf/8report.pdf

■ 平成30年度 大日本住友製薬賞「TDM研究」優秀論文賞を受賞

2018年5月26日(土)・27日(日)に福岡で開催された「第35回 日本TDM学会・学術大会」において、薬物動態学分野の河渕 真治助教が「平成30年度 大日本住友製薬賞『TDM研究』優秀論文賞」を受賞しました。

受賞者：薬物動態学分野 助教 河渕 真治

演 題：敗血症患者におけるアジスロマイシン持続投与後の体内動態および基礎的検討

演 者：河渕真治¹，藤田章洋¹，伊藤由佳子¹，棄原晶子²，中村 任³，安井裕之⁴，相引眞幸⁵，栄田敏之^{1,6}

(¹京都薬科大学薬物動態学分野、²武庫川女子大学薬学部臨床薬学教育センター、

³大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター、⁴京都薬科大学代謝分析学分野、

⁵愛媛大学大学院医学系研究科救急医学分野、⁶京都大学大学院薬学研究科統合薬学教育開発センター)



■ 産業界シンポジウム 若手ポスター賞を受賞

2018年5月26日(土)に山口大学で開催された「第78回分析化学討論会」において、薬品分析学分野6年次生の川田 奈実さんが「産業界シンポジウム 若手ポスター賞」を受賞しました。

受賞者：薬品分析学分野 6年次生 川田 奈実

演 題：定量NMRを用いたアマチャの主要成分の純度分析

演 者：川田奈実、武上茂彦、小西敦子、中村誠宏、松田久司、北出達也



■ 日本薬剤学会 最優秀発表者賞を受賞

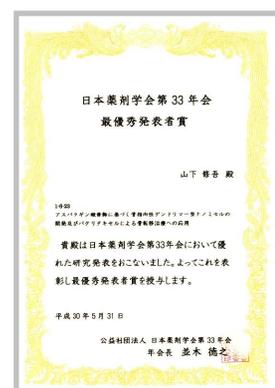
2018年5月30日(水)～6月1日(金)に静岡で開催された「日本薬剤学会第33年会」において、薬剤学分野の研究発表が「最優秀発表者賞」を受賞しました。

受賞者：薬剤学分野

演 題：アスパラギン酸修飾に基づく骨指向性デンドリマー型ナノミセルの開発及びパクリタキセルによる骨転移治療への応用

演 者：山下修吾^{1,2}、勝見英正¹、森下将輝¹、坂根稔康²、山本 昌¹

(¹京都薬科大学 薬剤学分野、²神戸薬科大学 製剤学研究室)



■ 日本薬剤学会 奨励賞を受賞

2018年5月30日(水)～6月1日(金)に静岡で開催された「日本薬剤学会第33年会」において、薬学分野の勝見 英正准教授が「2018年度日本薬剤学会奨励賞」を受賞しました。

本受賞は生体分子の高機能化に基づく製剤設計を活用した薬物送達システム (DDS) 開発に関する一連の研究が評価されたものです。

受賞者：薬学分野 准教授 勝見 英正

演 題：生体分子の高機能化に基づく製剤設計を活用したDDS開発



さとし ひろゆき

■ 田中智之教授、安井裕之教授らの共著

「科学者の研究倫理 —化学・ライフサイエンスを中心に—」が出版されました。

薬理学分野 田中智之教授、代謝分析学分野 安井裕之教授らが、研究倫理をテーマとする著書を出版しました。

本書は、一般的な研究倫理の解説に加え、化学・ライフサイエンスの分野に特徴的な種々の課題についても実例を交えて解説していますので、実験科学に取り組む学部生のみならず、指導する立場である研究者にも意義深い内容となっています。

また、各章末に研究倫理に関する議論の題材となる「問題」を掲載していることも本書の特徴であり、研究倫理に関する理解を深めるために活用できます。

※本書は図書館 (1F 薬学倫理コーナー) にあります。ぜひご覧ください。

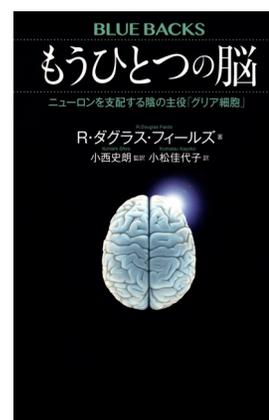


■ 統合薬科学系 高田和幸教授らの研究成果が書籍 (講談社BLUE BACKSシリーズ) で紹介されました。

統合薬科学系 高田和幸教授らの研究成果が、R・ダグラス・フィールズ著『もうひとつの脳 ニューロンを支配する陰の主役「グリア細胞」』(講談社BLUE BACKS)で紹介されました。

ニューロン(神経細胞)とともに脳を構成しているもう一つの細胞(グリア細胞)。近年の研究からグリア細胞は、神経細胞を支えるだけでなく、脳の発達、免疫、神経シナプスの形成・剪定といった神経回路の可塑性など、個体の生涯に渡って脳機能そのものをダイナミックに制御する細胞であることが次々とわかり始めました。著者のR・ダグラス・フィールズ氏は、ニューロン-グリア相互作用、脳発達および記憶の細胞機構の世界的権威として知られる神経科学者であり、本書では、脳を理解する上で、このようなグリア細胞がいかに重要であるのか、わかりやすく解説されています。

今回紹介された研究成果は、アルツハイマー病の原因と考えられる「 β -アミロイド」を脳内から除去する方法として、ミクログリア移植の有効性について示唆したものです。本研究は、病態生理学分野において滋賀医科大学、札幌医科大学との共同研究として実施され、2007年の論文で発表されました。



※本書は図書館 (1F 新着コーナー) にあります。ぜひご覧ください。

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2018年6月～2018年8月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

向井 吉一(昭22)	中村 悦子(昭37)	山口 博行(昭42)	糸井 朋子(昭52)	富山 剛(平14)
茂里八重子(昭30)	川嶋 義之(昭39)	大原 松雄(昭42)	山本 智子(昭56)	壺井 嘉人(平26)
松本 七子(昭35)	伊藤 悦子(昭41)	袖岡 茂徳(昭49)	山本 款政(昭62)	深谷 匡(平27)
吉川 明男(昭35)	谷口 睦子(昭42)	石丸 安徳(昭49)	山本由美子(昭62)	京薬会
伊藤 武宏(昭37)	中川 哲(昭42)	大石 美恵(昭51)	生駒 斉(昭63)	

＜平成元年会卒業30周年記念募金（平成元年卒業生）（五十音順）＞

井手佳位輔	児玉 和久	竹原 信子	本田 清実	山本 泰子
居原田総子	佐藤 正則	仲藤 真一	前田 朝子	
桑原千奈美	竹原 潤	西口 工司	山下 文恵	

＜京薬四四会卒業50周年記念募金（昭和44年卒業生）（五十音順）＞

畔 英雄	大槻 雅子	金子三屋子	田中 幸枝	安田美榮子
池阪喜代子	大野 高溥	神谷 純子	徳久 常子	山田 和子
伊庭 千鶴	大藪 宏	佐久嶋明世	長坂 忍	吉川裕美子
井上肆汰子	香川ゆりか	佐藤 猶子	野口 恵司	
井上芙美子	加治 眞彦	高越 清昭	野口 藤子	
岩本 美琴	門田 圭右	高崎 靖子	林 房子	
上野 啓治	門田勢津子	田中 憲子	前川 和子	

＜企業・団体・一般＞

キノンビクス株式会社

＜法人役員・評議員・職員（五十音順）＞

石黒 道彦(会長)	串田 ゆか(評議員)	土田 花美(係長)	富永 重夫(職員)
大原 松雄(監事)	高野 江里(課長)	土屋 勝(理事長)	

(2018年8月31日現在)

■ お詫びと訂正 ■

「KPUnews No. 194」におきまして、下記のとおり誤りがありました。お詫び申し上げますとともに訂正させていただきます。

P. 28 「【寄稿】OIST SCIENCE CHALLENGE 2018 に参加して」において、一部の文章が重複しておりました。

修正部分：8行目～16行目の文章は不要となります。



KPUnews No. 195 2018年10月発行／編集：KPUnews編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。